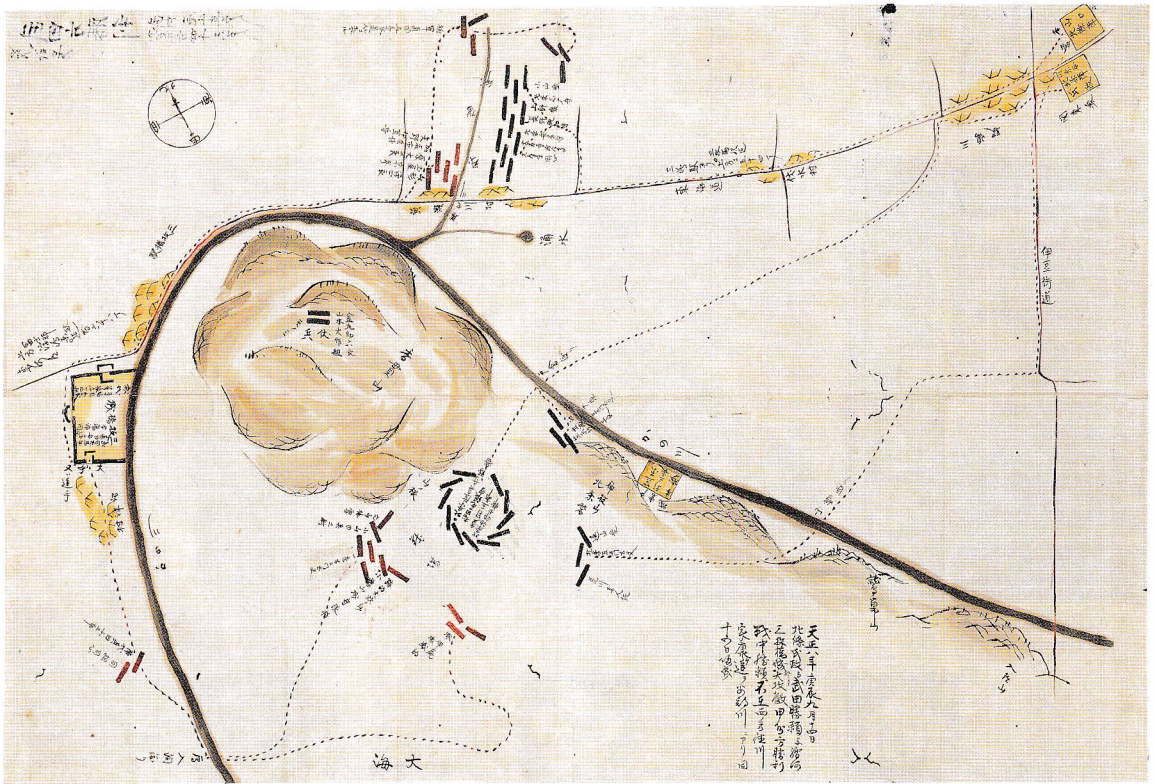


明治史料館通信

1997. 10. 25 (季刊 年4回発行) Vol.13 No. 3 通巻第51号



天正8年(1580)9月 沼津周辺で行われた武田勝頼対北条氏政の合戦の布陣図
(田中恵一郎氏寄託)

ぬまづ近代史点描 ③⑤

天正八年武田・北条合戦図

暗記教育の弊害などから現代でもその側面が大きい。民衆にとって、歴史とは英雄物語や為政者の変遷としか認識されない傾向が強い。

もちろん江戸時代にも芝居や講談とは違う学問としての歴史学があり、歴史学者や歴史書が存在した。科学的とまでは言えないにしても、地域においては文人の手で地誌などの編纂が行われ、身近な歴史を民衆自身が客観的に研究し、学習する機会もあった。沼津市域にも駿河国の名勝誌を編纂した川合隣山・植松東渚らが存在した。

駿東郡原宿の本陣・渡辺家は、源頼朝の弟阿野全成を先祖と称していた。そのため、嘉永四年(一八五二)の六百五十年忌に際し、全成・時元父子の墓を東井出村の清泉寺に建立した。豪農・豪商らは、特権的な地位の由来を証明するために先祖の功績を持ち出す場合が往々にしてあった。近世の有力者にとって家の由緒を歴史に位置づけることは現実の利害面においても必要なことであり、それが自らの歴史認識

を形成する源にもなっていたといえる。同時に、知識人もあった彼らにより地域における歴史・地誌編纂や史跡の整備が行われたのも事実である。

明治に入ると、近世の伝統を汲みながらも、より近代的な手法で地域を研究し、教育に生かそうとした沼津の間宮喜十郎のような歴史家も生まれることになる。学校教育の中で歴史が教えられるようになったことも大きい。

ここに紹介した天正八年（一五八〇）沼津近辺での武田勝頼と北条氏政との合戦のようすを描いた布陣図は、駿東郡東間門村の田中氏の手により作成されたものであり、地域の民衆が郷土の歴史を調べ、ビジュアルな形に示したものと云える。田中氏は同村の名主をつとめた旧家であったが、その先祖は武田氏の武將横田備中守であると称していた。幕末から明治にかけての当主田中彦十郎（昌達）が、先祖や郷土に関わる資料としてこれを作成したらしい。間宮喜十郎も田中から資料を借り出し郷土史編纂の参考に行っている。

シリーズ

沼津兵学校とその人材

48

旗本から沼津兵学校教授へ



久須美 祐利 (田中和子氏提供)



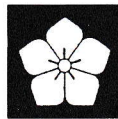
揖斐 章 (揖斐暢氏提供)



平岡 芋作 (平岡弘一郎氏提供)



久須美家家紋▶



揖斐家家紋▶



平岡家家紋▶

近世中期からの足高制による人材登用、幕末における能力主義的拔擢などにより、幕府の人事は決して硬直した封建的階層制度に縛られたものではなくなっていた。静岡藩の役職者はその人事政策の極致に位置するものといえるが、沼津兵学校に集められた教授陣の

顔ぶれを見ると、確かに微禄の御家人や陪臣出身者が少なくなく、中には自身もしくは先祖が農民身分であった者すらいる。

その一方で、先祖代々のれっきとした旗本出身の者が存在するのでもまた事実である。たとえば、二等教授浅井道博は、徳川家康に仕えた先祖六之助道忠が大高城の兵糧入れの際に奮戦した功により家紋を与えられたという由緒ある家柄（家禄二百俵）。同教授平岡芋作の先祖因幡守良清は武田信玄から家紋を与えられた由緒を持つ。同教授間宮信行は小田原北条氏に仕えた武將左衛門尉信繁を先祖とする家柄（四百石）。同教授揖斐章は小牧・長久手の合戦で家康方に戦功があった美濃の武將政雄が先祖（三百俵）。彼らは旗本とはいえ概して禄高は低い、他に少参事・軍事掛として兵学校の管理にあたった幹部の中には、藤沢次謙（二千石）や阿部潜（千五百石）のような高禄者もいた。

もっとも、藤沢次謙は蘭学者桂川家から藤沢家に養子に入った人であり、旗本の家自体も新規取立

や養子縁組などにより、「優れた血」が順次取り入れられていたのである。三等教授久須美祐利の場合、曾祖父の代に越後の農民から幕臣に取り立てられた新しい家であり、勘定奉行などをつとめ五百石取の身分に立身した佐渡守祐明を父に持っていた。

教授のみならず資業生についてもそうであるが、沼津兵学校における高禄の旗本出身者の存在は、幕府滅亡の元凶のように言われる旗本のすべてが無能であったわけではなく、有能な人材は家格・禄高の高下に関係なく輩出されたことを示している。ただし、地位・財産の違いにより、登用機会や教育環境の違いが生じるのが当然で、スタートにおいては平等な競争にはなっていないはずである。

江原素六とその周辺(29)

平林広人 ひらばやし ひろんど

江原素六が属したキリスト教の教派は、プロテスタント(新教)の中でも明治六年(一八七三)に伝来したカナダ・メソジスト教会である。東京で布教した宣教師クランとともに、静岡に赴任したマクドナルドによって布教が開始されたため、その後同教会の主要な牧師・有力信徒には静岡の出身者が多数を占めることになった。彼らは「静岡バンド」と呼ばれる。バンドとは団のこと。

従来、日本のプロテスタント史上においては、三か所の発祥地に生まれた横浜バンド(植村正久・

井深梶之助ら)、熊本バンド(小崎弘道・海老名弾正ら)、札幌バンド(内村鑑三・新渡戸稲造ら)という、有力な担い手集団が有名であった。それに対し静岡バンドは、戦後になり命名され、定着した呼称である。

静岡バンドの名称を最初に使ったのは、平林広人(一八八六一―九八六)である。現長野県南安曇群豊科町に生まれた平林は、明治三十九年(一九〇六)、日本メソジスト松本教会において橋本睦之牧師から洗礼を受けた。平林は伝道や農村での成人教育に従事、大正

六年(一九一七)八月には、後藤新平・沢柳政太郎らの後援により日本アルプスの麓、木崎湖畔に木崎夏期大学を開設した。同大学には吉野作造・柳田国男らが講師に招かれ、大正デモクラシーの時代、地域民衆の学習意欲に応えるものとなった。

平林に洗礼を授けた橋本牧師は沼津教会時代、江原素六に二度目の洗礼を授けた人。江原文書の中に残された大正六年五月十六日付の素六宛平林の絵葉書は、橋本牧師の伝記について問い合わせをしたことに関する内容である。ちょうど夏期大学の開設直前であり、そのことにも触れている。

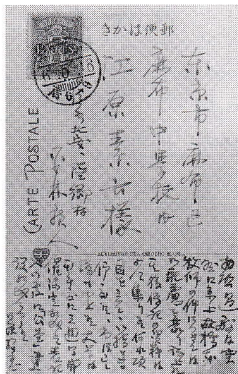
東京市麻布区 麻布中学校内

江原素六様

信州北安・陸郷村

平林広人

拝啓 過日突然に参上、故橋本牧師の件につきましては御配慮を蒙り存上候、其後伝記の資料は少々集り候、何れ項目を立て、御指導仰度候、尚ほ其際も申上候大学は本年度に三



江原素六あて平林広人の葉書
(江原文書G-a-174)
此辺所謂日本アルプスの連山に有之候

週間開催決定相成候、表記入の処に「公堂」建設相成可申候、御挨拶まで

その後、平林は東京市長後藤新平の推薦により東京市社会教育課の嘱託となる。大正十一年（一九二二）には、少年団日本連盟総裁に就任した後藤新平の下で、その秘書の資格で同連盟理事となり、ボーイスカウト運動を推進した。十三年（一九二四）にはコペンハーゲンで開催された第二回国際ジャンボリーに日本代表の一人として参加。大会終了後も同地に滞在し、デンマークの国情や教育事情を学んだ。

十五年（一九二六）に帰国、全国を講演してまわりデンマークの生活・文化のすばらしさを説く。その話に感動し、自分が所有する農場にデンマークの国民高等学校を模範としたキリスト教主義に基づく農業教育機関の開設を思い立ったのが、沼津兵学校附属小学校出身の旧幕臣で、札幌バンドの一人でもあった渡瀬寅次郎である。渡瀬は同年亡くなるが、遺志は引

き継がれ、昭和四年（一九二九）五月、静岡県田方郡西浦村久連現沼津市）に興農学園が開校するに至った。平林は六年（一九三一）四月に退任するまで、同学園の園長の地位にあった。当時、市川房枝を沼津に招き婦人参政権獲得のための講演会を開いたりもしている。

戦後も平林はデンマークに関する研究を続け、講師として東海大学で教鞭をとったりした。その一方で、カナダ―静岡―長野とつながるカナダ・メソジスト教会の歴史についても深い関心を寄せ続けた。そして『明治文学全集』（筑摩書房）の月報（一九六五年）に載せた「愛山と信濃」という文章において、「静岡に発祥したカナダ派のメソジスト宗教グループ―わたくしはこれを静岡バンドと呼んでいる―と書いたことが、「静岡バンド」の呼称の最初の用例となったのである。

〈参考文献〉市原正恵「静岡バンドの命名者・平林広人覚え書」（『静岡県近代史研究』第17号 一九九一年）ほか

お知らせ欄

◎企画展「神に仕えたサムライたち―静岡移住旧幕臣とキリスト教―」の開催

明治維新の敗者であった旧幕臣の中から明治期キリスト教界の指導的人物が多数輩出しました。今回の展示会では、維新後駿河・遠江に移住した旧幕臣（静岡藩士）とその子弟たちで、クリスチャンとなり活躍した群像に光をあて、紹介します。

期間：11月1日（土）から来年2月22日（日）まで
会場：3階北側展示室

◎図録「神に仕えたサムライたち―静岡移住旧幕臣とキリスト教―」の刊行

企画展の図録を刊行します。テーマに関連した写真、史料などが多数収録された冊子です。
規格：B5版・52ページ
頒価：一〇〇〇円

◎歴史講座の受講生募集

企画展に関するテーマで歴史講座を開催します。日程・講師・内容は表の通りです。

〔歴史講座〕

- 11月8日(土) 太田愛人氏(日本基督教団上星川教会牧師)
「静岡バンドの系譜」
- 11月15日(土) 樋口雄彦(明治史料館学芸員)
「旧幕臣とカトリック・ロシア正教」
- 11月22日(土) 市原正恵氏(女性史研究家)
「幕臣の妻キリスト教受容のかたち―木村鏡の書簡から―」

申込みと問い合わせは当館まで電話でどうぞ。

時間：午後2時から4時まで
場所：当館講座室
定員：一〇〇名

沼津市明治史料館通信 第51号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂三七二―一
電話 〇五五九一三三三三五
FAX 〇五五九一五三〇一八